

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁 ありがとう、バルデス神父様、西村神父様

4頁 福者ユスト高山右近にならう聖性への道のり

9頁 こんにちは神父さん (野田 安則神父)

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2017年 共同宣教司牧ブロック大会

大塚喜直司教は2002年よりブロック訪問を実施されてきました。

昨年までは、司教がブロックを訪問して、主日ミサを司式し、司教年頭書簡にあわせた司教講話や分かち合いが行なわれるというものでしたが、今年からは各ブロックが主体的に実施する「共同宣教司牧ブロック大会」に司教を招待するという形になっています。

すでに、山城、滋賀、洛北、京丹、奈良の5つのブロック大会が行われました。ブロック長期計画に基づいてテーマを検討し、各ブロック独自の工夫を凝らした大会が実施されています。(写真は5月21日に「ひこね燦(さん) ぱれす」で行われた滋賀ブロック大会でのフィリピン人コミュニティの発表の様態です)



ありがとう、
アントニオ・バルデス神父様、
西村ブライス神父様



この春、京都教区で長年にわたってご活躍された2人の司祭が帰国されました。アントニオ・バルデス神父様(ゲアダルペ宣教会)と西村ブライス神父様(メリノール宣教会)のお二人です。2017年5月1日、まずバルデス神父様を桑名教会に訪ねて、お話をうかがいました。

桑名の聖地にて

5月1日、近鉄桑名駅で降りて、観光案内所で教えられたとおりに国道を少し歩くと、神社の鳥居の向こうに桑名教会が見えました。「教会のすぐ前が神社で、立正佼成会の教会と、2つのお寺もあり

ます。この辺りは聖地です。お互い仲良くしています。」バルデス神父様はそんなことをお話しになりながら、庭や聖堂を案内してくださいました。神父様はこの桑名で17年間を過ごされたそうです。

闘牛士が夢だった

バルデス神父様は1932年6月28日に、メキシコのトラシカラでお生まれになりました。子どもの頃は野球が大好きで、将来の夢は闘牛士になることでした。でも、ミサで侍者をしながら司祭になりたいと思うようになり、15歳の時に教区の神学校に入学しました。その数年後、メキシコの司教団が宣教師を養成するための神学校を設立して、国内の各神学校からの志願者を募りました。こうしてゲアダルペ宣教会が始動したのです。

バルデス神学生はこれに志願して、この宣教師神学校で学び、1956年、24歳で司祭に叙階されました。2年後の1958年、宣教会の創立記念ミサの後に、突然、仙台への派遣の任命が発表されたそうです。とても驚きましたが、こんなにも早く宣教に行けることがうれしくてなりませんでした。日本のイメー



ジと言えばゼロ戦と戦艦大和。船で2週間かけて横須賀へ、列車で会津若松へ。言葉が全然わからないことやら、東北の雪や寒さがこたえましたが、

決めたのだから、悔いも迷いもなかった

今回のインタビューでは、司祭をやめたくなったことはありますか? 国に帰りたくなかったことはありますか? というような質問を連発したのですが、神父様はまったく自然に、何の気負いもなく、こんなふうに答えられました。

……これが私の生き方なのだと決めたいたんです。決めたのだから、つらいことも乗り越えられました。自分の人生はこういうものだど覚悟していれば迷いは

ありません。言葉とか生活とか食べ物とかも、初めは戸惑いましたが、自分が置かれた状況をそのまま受け入れて、ある物を食べて、ある物で済ませて、すぐに日本に慣れました。ここでこれをするために私は生きていると思っていたから、やめたくなったことも、帰りたくなったことも、まったくありません……。

お話を伺っていてこれらのお言葉に微塵も曇りがないことが明らかで、私は神学校の倫理神学の授業で習った「根本的選択・根本的決断」という用語を思い出しながら感動しました。

東北から亀岡へ

来日以来、ずっと仙台教区内で働いておられました。バルデス師が日本管区長をされていた1984年、田中健一司教様の要請で、グアダルペ会は京都教区でも活動することとなりました。

最初に赴任した亀岡教会では、それまでにすっかり身についていた東北弁を皆さんが受け入れて下さったけれど、それから5年後に、河原町教会を経て、高野教会に赴任した際には、皆さんから「細やかで親切なご指摘とご指導」を受けて



話し方が変わったという話を、懐かしそうに話してくださいました。

高野教会で5年、山科教会で7年、そして桑名教会で17年間。そ

の間、幼稚園長、ボーイスカウト担当、カリタスジャパン担当、教誨師としての仕事もされ、それぞれに思い出があります。幼稚園のクリスマス会でサンタクロースに変装すると、子どもたちは本物のサンタだと信じました。でも、クリスマスでなくても、その容貌からいつもサントさんと呼ばれていたそうです。伏見の拘留所の教誨師も長期間務め、親しまれていたバルデス師は、しばしば指名を受けて呼び出され、非常にやりがいを感じる仕事だったそうです。

主と共にその実りを味わう

バルデス師はこの夏、59年にも及ぶ日

本での長い長い旅を終えて、メキシコに帰国されます。帰国する前に、長年宣教活動に関わった会津を訪れる計画があるそうです。来日直後は、「耶蘇(ヤソ)」と言われて役所で門前払いを受けたこともあったそうですが、地域に根差した地道な活動が評価され、50年経ったころには町から感謝状がもらえました。会津が自分のふるさとになっていったことを嬉しそうに話されていました。メキシコに帰国後は、グアダルペ会の本部か、故郷トラシカラの教会でご奉仕されます。福音宣教の旅は終わりません。

「私はキリストを伝えたい」

最後にバルデス神父様にいくつかの質問をしました。Q好きな聖書の言葉は？ A「私は取るに足りないしもべです。しなければならぬことをしただけです。」(ルカ17・10) Q神父様にとってキリスト教とは何ですか？ A「私は福音を伝えたい。キリストを伝えたい。」Q日本の皆さんにメッセージを！ A「お世話になりました。」神父様は終始、表情を変えず、まったく飾り気のない語り方もなく、まったく飾り気のない語り方



でした。キリストを伝えるのは雄弁ではなくて、キリストを生きている人の存在そのものなのだと強く感じさせられました。そして、車で駅まで送っていただき、車窓を流れる街の風景を眺めながら、「桑名はどんな所ですか?」と聞くと、神父様は「ええ、いい街ですね。」と言われました。

59年にも及ぶ日本でのご奉仕に心から感謝申し上げます。ご帰国後もますます豊かに主と共に歩まれますことをお祈り申し上げます。ありがとうございます、バルデス神父様!

西村ブライス神父様はすでにご帰国

この2日
後の5月3
日、バルデ
ス神父様と
同じく、今
年の復活祭
をもって京
都教区で
の司牧を引
退された西
村ブライス
神父様(メ
リノール

ル宣教会)とお会いするべく名張教会を訪れましたが、神父様はすでにアメリカにご帰国されており、インタビューは叶いませんでした。西村ブライス神父様は1956年に来日され、61年にわたって日本での福音宣教のためにお働きになりました。長年におよぶご奉仕に心から感謝し、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。ありがとうございます、西村ブライス神父様!

京都教区広報委員会
担当司祭 菅原友明

福者ユスト高山右近にならう

聖性への道のり

「主こそ、わが光」

あなた方と共に居る

右近の列福式が盛大に行われました。大きな精力と熱意をもって喜び祝われました。願わくは、それがただ祝典やお祭り、ただの行事に終わりませんように。大切なことは、右近の霊性を観想し、私たちが現在(いま)、その叫びかけに

応えて生きることです。

マザーテレサの列聖式が、丁度ローマ滞在中に行われ、聖ペトロ広場一杯に何十万人と集っていました。でも、私は聖ペトロ広場の祝典に参加しませんでした。(もちろん、車椅子で自由に動きにくいこともありましたが) マザーは、自分が列聖式を祝ってもらおうことではなく、自分をとらえたキリストの愛の心を世界の片隅に出かけて、私が出会い続けた「小さなキリスト」に出会いに行きたいと願っておられるように思えて……。

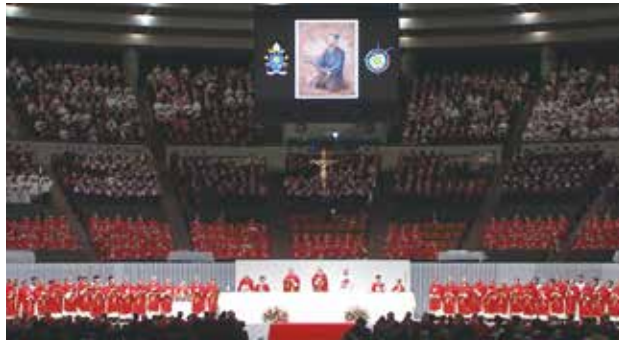
同じような気持ちで列福式の日を過ごしておりました。私は何もその大きな式典がどうのこうのと言っているのではありません。それはとても素晴らしいこと。でも、その式典がすばらしければすばらしいほど、それが私たちの精神を変容させ「回心」させるものでなければならぬと思います。

聖書委員会の今年の聖書講座のテーマも「聖書で祈る、高山右近にみる福音的生き方」ですが、それは「高山右近の生き様を通してキリストの生き様」を観想することにあります。

「観想」を頭で考えることだなどと思わないで下さい。観想とは、神がご自身を現わされるのを観つめた者が、神を観つめなおすこと、また神との心と魂を全身を傾けた出会いを指します。そして、それは信仰告白へとつながるのです。

「信仰告白」という言葉も誤解されているかもしれません。「命のみことば」を通して交わされる神と人との対話、命をかけた出会いそのものなのです。そこにはもう神と人との、神の命の「交わり」が始まっているのです。「交わり」という言葉も気にかかります。ラテン語で「コムニオ」共に一つになる」という意味です。そこに表現される「一致」を意味します。

それを最もよく表すのが、御ミサ、その象徴的また頂点と言われる聖体拝領を「コムニオ」と言います。ところで聖体拝領は、キリストの御体を頂くことですが、それはイエス・キリストを通して三位の神と交わることであります。ちなみに「主の祈り」も三位一体の祈りです。そこで祈りの中心になるのは、父（アッパ）である神で、御子イエス・キリストが、アッパと呼んでおられます。



福者 ユスト高山右近殉教者
列福式ミサ
2017年2月7日 大阪城ホール

何によってアッパと呼ばれるかといえ、**「聖霊によって、聖霊と共に」**です（マルコ14・36、ローマ8・15、ガラテヤ4・6）。

その御父をアッパと呼ぶ関わりに、私たちも招きいれられて、私たちにアッパ父と祈りなさいと、主は教えて下さり、私たちが三位一体の交わりの中に招き入れて下さいます。

右近をはじめ、あの迫害の最中に生き残った人々が、なぜ命をかけて御ミサを大切に

にし、主の祈りを最も大切な祈りとして言い伝えたか、分かるような気がするのです。

右近の時代、今のようにみんなが「全訳聖書」を手に出来たわけではありません。宣教師たちは「ラテン語」のヴェルガータ訳（聖ジェロニモが訳したものだといわれる）の聖書をもって、特に御ミサの中で、日本語に訳しながら説教をしたのです。ただ、御受難の箇所は、四福音書を統合した、かなり自由に物語る日本語訳もあったようです。ほかに「キリストに倣いて」「イグナチオの霊操」「ロザリオの迫害」などを通して聖書の断片的とはいえ本質に触れていたのです。聖書のみことばが、彼らの見事な信仰の「証し」となったことは事実です。

右近の列福式を境に、私の聖書の読み方の一つの見方が加わり始めました。「右近だったら今日のミサの朗読をどう聞いたのかな」ということです。このような読み方は、現在の私たちと、みことばとの対話の中に、一つの視点を加えるのです。これが右近の精神と現代的に読み取るといえることになるのかもしれませんが。右近を思いながら読んでみます。例え

ば、ヨハネの6章。この章全体は、聖体神学の書とも言えるものです。6章は二つの奇跡が始まります。それは聖体の秘跡の意味を説明する「しるし」だといわれます。ところで「パンの秘跡」がこ

こで語られるのは良く分かります。「湖畔を歩く奇跡」は聖体とどう関わるのか、よく分かりません。でもそこに「私である」という言葉に注目すると「私ありて在るもの」(ヤヴエ)という言葉と出会う。これはモーセに告げられた言葉です(出エジプト3・14)。ヨハネは、私が上げられた時(十字架で)「私はある」であると知るだろう(ヨハネ9・28、18・6)。

「嵐の海」これも象徴的な意味。海はサタンの支配する領域(と世)を表す。その湖(世)の真ただ中に小舟が一つ波にほんろうされています。迫害によって今にも沈もうとしている教会です。

その舟に主が近づいて来て「私だ」といわれる。

迫害の嵐の中で主に出会う。

「私だ」と言われる方が立っておられる。

いかなる時も「共に生き」仰ぎ導き守って下さる方(ヤヴエ)がおられる。キリストは、「ヤヴエ」と呼ばれないが。

「エンマヌエル(共に生き仰ぎ導き守って下さるもの)」として私の前に立っておられる。

(マタイ福音書のテーマ)
この神は、子供が親を忘れても決して忘れることの出来ない母以上の愛に満ちた方である。(イザヤ49・15)

そのような神に気付いた。
そのような神に出会った。
それが、彼の命となった。

右近がこれらの聖書の言葉を語ったとは、現存する資料としてはどこにも見当たりません。右近の日本における資料は、皆無というべきです。それほど江戸幕府は右近の影響を恐れ、焼却したのです。

でも、その生き様や精神は消えず、私たちの中に生き始めています。神の言葉は、生きていく力です。

(村上透磨)

日本教会史講座

「伏見とキリスト教」



講師 Sr.小川英子
(ヌヴェール愛徳修道会)

今回の講座では今年2月の高山右近列福式をきっかけに、右近も関わりがあった伏見に焦点を当て、伏見に生きたキリストンたち、そして現代につながる信仰の光について話していただきました。

伏見とキリスト教については、直接的な資料がほとんどなく、京都のような痕跡も残っていない中で、「聖心の使徒」誌(昭和35年4月号)に伏見教会のイエズス会司祭の3人の名前を見つけ、確かに400年前に伏見にカトリック教会があり、ミサや朝夕の祈りが捧げられてい

たことを知り感動しました。

「豊公伏見城ノ図」等の古地図を見ると、当時、政治の中心であった伏見の城下町に、クリシタン大名がどのように配置されていたのか知ることが出来ます。伏見城を中心にこれだけのクリシタン大名が住み、そして大名の多くの領民がクリシタンとして信仰を守っていたことは驚くべきことです。

またこの図には右近の屋敷も記されています。1587年伴天連追放令により、信仰を選んだ右近は追放され、金沢の前田利家に預かりの身となりましたが、かなり自由な行動が認められていた



「豊公伏見城ノ図」
高山右近、小西行長、黒田長政、
筒井定次、京極高次、織田有楽斎、
蒲生氏郷等の大名屋敷

ので、しばしば伏見を訪れクリシタンたちを助け、イエズス会修道院や教会を建築する援助をしていたと考えられます。

伏見のカトリック教会

「町屋に囲まれた地域に高山右近の屋敷があります。内部に入れば教会堂だが、外観は一般民家と少しも変わらない家を建てていました」(1614年イエズス会年報)。1604年〜1614年まで存在したこの教会の場所が近年明らかになってきました。高山右近の従兄弟のマルコ孫兵衛が土地を購入し、日本風



「信仰の小道」
月桂冠の敷地内に
残る、教会への通路



「高山右近」と記された
イエズス会の教会
(図：月桂冠HPより)

家屋の教会を建てました。孫兵衛は教会の隣に住み、京都の都に逃れた司祭や信徒も孫兵衛に会うためと言って日曜日ごとにこの家に集まり、ミサや秘跡にあずかることができました。1605年には900人の受洗者があり、その後、千人以上の信徒がいたということです。

しかし1614年、伏見でもクリシタン禁教令が徹底実施され、クリシタンの取り締まりが強化されていきました。そして多くの信徒が牢屋へ入れられ、宇治川の河原・観月橋付近で殉教しました。

クリシタン時代における一般信徒の宣教活動

司祭の減少にもかかわらず、なぜこの時代にクリスト教がこれほど伝わったのでしょうか。イエズス会の報告書によると、司祭の不足や政治的な不安定さの中で、信徒たちがクリスト教を伝えたいと願い、洗礼の授け方、死者の埋葬式の祈り、カテキズムなどの教えを学び、それを各地で伝えていったということです。一般信徒が宣教師たちだけに頼るのではなく、自分たちで信仰を広めていこうとしたことが大きかったのだと思います。

現代(400年後)の伏見におけるキリスト教

およそ400年が経ち、1948年、学校設立のためにヌヴェール愛徳修道会が伏見に来たことを機に、337年ぶりに伏見に教会が建てられました。そして1966年には桃山教会が、昔のイエズスの教会から僅か300mほどの所に建てられました。また伏見では現在、ヌヴェール愛徳修道会のほかに小さい姉妹会が、かつて多くのキリシタンが殉教した宇治川の観月橋近くに住みながら、地域で家庭訪問するなどして人々に福音を伝えていきます。400年前、伏見で信仰を生きた人達が今も祈って下さっているのを感じます。「わたしは、ひとえに神を愛するためにのみ、キリスト者になったのです。」と迫害する者の前でキリシタンたちは述べています。現代に生きるわたしたちも、主から宣教を委ねられたものとして、使命に忠実に生きる者になりますように。

福音宣教企画室

回勅『ラウダート・シ』

読書会推進企画 お試し読書会

前号に引き続き、回勅『ラウダート・シ』読書会推進企画についてお伝えします。第二弾として5月11日に「お試し読書会」を行いました。

福音宣教企画室では小教区や小さなグループで回勅『ラウダート・シ』の読書会をしていただくことを提案しています。そこで『ラウダート・シ』について少し学びながら、実際にグループで読書会を行う「お試し読書会」を企画しました。

まずは『ラウダート・シ』という回勅についての理解を深めました。『ラウダート・シ』は単に環境問題についてだけでなく、それを中心として、さまざまな社会の問題や日常生活について、考察しています。しかしながら、回勅全体で環境問題を取り上げたのはこれが初めてで、カトリック教会の中ではとても新しいことなのです。このような理解を入りに、タイトルから見る事ができる『ラウダート・シ』の特徴や、各章の内

容や構成などを中心に、読む際のヒントとして確認していただきました。

さらに読書会をするにあたっての、やり方やさまざまな方法、参考資料などを読書会のヒントとして提案し、実際にグループに分かれて読書会をしてみました。特に教皇フランシスコの思いを強く感じる事ができる「序」の中からいくつかの文章を読み、分かち合いました。環境問題に関心のある参加者も多く、自分たちの生活と自然、環境とのかかわりについての声が多く聞かれ、いつもとは一味違う分かち合いとなりました。また、「環境問題」と、大きくとらえるだけでなく、自分の生活の身近なところから取り組んでいきたい、小教区で読書会を始めてみたいという感想もありました。

当日配布した資料(回勅『ラウダート・シ』について、読書会のヒント)とそれを説明した補足資料を福音宣教企画室のHPに掲載しております。前号掲載の講演会の記事とともにぜひ参考にしていただき、読書会が行われ、皆で『ラウダート・シ』「たたえられよ、あなたは」という思いになることができますように。

福音宣教企画室

こんにちは神父さん



野田 安則 神父

所属 レデンプトール会
 生年 1956年
 叙階 2011年

2011年司祭叙階後、大阪教区での1年間、横浜教区での3年間を経て、2015年春に京都教区に異動、1年間、宮津・舞鶴ブロック（現在の京都北部ブロック）での奉仕の後、2016年4月から1年間カナダで研修し、今年の4月帰国しました。復活祭以降、再び京都北部ブロックで奉仕させていただいています。レデンプトール会の舞鶴修道院に所属していますが、普段の住居は丹後教会宮津教会堂の司祭館です。

カナダでの研修は、モンテッソーリ教育および子どもの要理教育（Catechesis of the Good Shepherd）の研修が中心でした。要理教育については、子ども大人を問わず、その大切さを再認識しました。これら以外に、神学の聴講、そして英語の学習など、1年間でしたが、多くのことを学ぶことができました。支えていただいた大勢の皆様には感謝いたします。学んだことを何らかの形で皆様にお返しできるようにしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

8月のお知らせ

平和旬間行事

京都教区カトリック正義と平和協議会

第10回 戦争と平和写真展

「今」オキナワ・フクシマ・ニッポンは？

日 時：5日⊕ 17:00～20:00

6日⊕ 7:30～15:00

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

入 場：無料

京丹ブロック

平和を作り出すキリストと市民の集い

「ともに暮らす家を大切に」

～わたしたちの地球の祈り～

日 時：6日⊕ 16:00～18:00

講 師：中川 博道師(カルメル修道会)

場 所：桂教会 TEL.075(381)3286

参加費：無料

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：6日⊕ 14:00/26日⊕ ミサ奉仕後
 カトリック会館6階

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイA

毎週土曜日 朝7:45

シリーズ「私のキリスト道巡礼記」

出演は橋本 勲師(長崎教区)

ラジオ(KBS京都)⊕～⊕ 朝5:55

⊕ 朝5:15

8月のテーマ「評価する」

※ 10月号の原稿締切り日は8月23日⊕です。

大塚司教の

8月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



1日(火) 第11回 京都教区教職員修養会
(河原町)

3日(木) - 4日(金) 比叡山宗教サミット30周年記念
「世界宗教者平和の祈りの集い」
(比叡山 延暦寺)

5日(土) - 7日(日) 教区中学生広島平和巡礼

11日(金) - 14日(日) 十和田・久慈・大湊・三沢
教会訪問

15日(火) 20:00 ムン・チャンウ・ピオ司教叙階式
(濟州教区)

19日(土) - 20日(日) 神学生志願者合宿

26日(土) 10:00 教区 教会学校教師 研修会
(河原町)

春プロジェクト

西舞鶴教会 小林 真衣

5月20日～21日に青年センターの企画である、春プロジェクト(通称・春プロ)を行いました。春プロは昨年度から始まり、今回で2回目の企画です。今回は、「ささげうた ～みんなをひとつに うたにのせよう～」をテーマにミサで歌うことの意味や、歌の内容についてわかちあいをしました。

ミサで歌うことについてのわかちあいでは、「歌はみんなでお祈りしている気持ちになる」「復活の続唱などは、その時しか歌えない特別な感じがする」という話に、みんな頷きながら話をしていました。

夕食後には、歌うことの意味や歌の選び方について、鶴山神父様から講話をしていただきました。聖書の箇所がそのまま歌になっているものがあることや、歌うことは祈ることだということを知りました。その中でも「よく歌う人は2倍祈ることになる」という言葉が印象的でし

た。また、ミサ曲を選ぶときのポイントを聞き、それを踏まえて入祭・拝領・奉納を各班で選びミサに与りました。

最後のわかちあいでは、青年センターの歌集の中から「ささげうた」の歌詞についてワールドカフェの手法を用いて行いました。歌詞の中に「喜びと感謝をこの歌にして」というフレーズがあり、わたしたちは、この2つを日常生活の中でも神様に捧げていくことが大切で、そうしていきたいということをつかち合いました。

今回の春プロを通じて、歌をもっと身近に感じ、祈るための方法の一つとして捉える人が増えたら嬉しいです。



【青年センター-HP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな